

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 2科目で120分

## 解答形式

マーク, 計算, 記述

## 分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 大問数は変わらないが, 設問数が減少した。

難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

## 出題の特徴

難しい問題は少ないが, 計算を伴う問題が多く, 120/2分では時間的な余裕はない。

## その他トピックス

〔Ⅱ〕会話文による水素に関する総合問題が出題された。

〔Ⅰ〕(1) C, (10) B, 〔Ⅱ〕問3, 9, 〔Ⅲ〕問5は題意が読み取りにくく, 戸惑った生徒がいたと思われる。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
〔Ⅰ〕	マーク 計算	小問集合	化学基礎 化学	(1) 第3周期元素の周期律, 単体と酸化物の性質 (2) 原子の構造, 原子量, $\beta^+$ 壊変 (3) ケイ素の結晶格子 (4) 混合気体, 飽和蒸気圧 (5) 中和熱, $K_w$ と温度の関係 (6) 塩素のオキソ酸 (7) 油脂 (8) 脂肪族化合物の性質 (9) 疎水コロイド (10) ペプチドの検出反応	標準 やや易 標準 標準 標準 やや易 標準 標準 やや易 標準
〔Ⅱ〕	マーク 記述 計算	理論, 無機	化学基礎 化学	水素に関する総合問題 水素の検出反応, 水素の単体の製法, 都市ガスへの水素添加, 鉄鉱石の還元, 水素-酸素燃料電池, 水素の貯蔵・輸送	標準
〔Ⅲ〕	マーク 記述 計算	有機, 無機	化学	解熱鎮痛剤の有効成分 水酸化アルミニウムの性質, アセチルサリチル酸の含有率の測定実験, 芳香族化合物の構造決定	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

ほぼ全範囲から出題されるので、苦手分野をなくし、幅広く学習する必要がある。基礎知識を確実に身につけ、標準的な問題の演習を十分に行うこと。また、計算問題が多いので、効率よく計算する訓練をしておくこと。酸化還元, 反応速度は頻出である。